

君のポールポジションを取れ！

前ページで「高校1～2年で上位をキープする」と書いてありますが、これを実践するのに大事なのが入学直後に実施される「課題テスト」とそれに続く「中間テスト」です。

私は高校入学前の春休み、課題テスト（テキスト指定の校内実力テスト）の範囲をろくに学習せず、惨憺たる成績を取りました。225人中190番台。そこから、私の高校生活がスタートしたのです。

中間テストでは相変わらず勉強はしませんでした。少し上がって170番台でした。20番ほど順位が上がったので「よし」としていました。

隣のクラスに中学時代私より成績が下だったA君がいました。私の高校は80番までの生徒の名前が各教室に張り出されます。課題テストの順位表には彼の名前があったのです。13kmの自転車通学で、A君と話をしていると「順位表から絶対に落ちないように頑張る！」私はと言うと「俺だってやればできるんだろ？な～」なんて呑気な事を考えていました。

これ以降高3の夏まで、私の定期テスト、校内実力テストの席次はずっと安定して、170番前後を維持しました。なんとか宿題をするくらいで、勉強という勉強はせずに、なんとなくさぼって、少しやれば上がるという、そのあたりが居心地のいい席次となっていたのです。A君はと言うと有言実行、30～80番をずっと維持していました。

これが私の高校時代の失敗です。わかりますか？

最初の自分の位置が基準となってしまう、ということが。

高3の夏、行きたい大学が決まりました。私の成績では「あ、記念受験ですか？」というような、雲の上の上の大学でした。分かりやすく言うと、5科目300点の生徒が半年で450点に上げないといけない、そんな感覚です。

そこから私の受験への助走が始まりました。命をかけた？運動会が終わった10月から、1日14時間学習という全力疾走が始まりました。母にお願いをして自転車通学をバス通学にさせてもらい、満員のバスの中で立ったまま、降りて高校までの8分間を歩きながら、休み時間も弁当の時間も勉強をしました。家に帰ってトイレに入る時間、食事の時間、さすがに母に「食事のときくらい勉強やめたら？」と言われました。風呂にテキストを持って入って、うっかり湯船に落としてしまいました。その対策で翌日ビニールに入れたら、曇って見えなくなったので、風呂の時間はゆっくりすることにしました。社会は比較的早くに結果が出てきました。国語、数学も徐々に。しかし1日6時間費やした英語が全く動かないのです。年が明け1月後半、過去問をやっているときに、英語が出来るようになってきた、という感覚がありました。そして何とか互角の戦いに持ち込めたかな、と思った2月上旬受験が始まりました。

5校受けました。結果は4連勝で、最後の結果発表が本命のW大学。

3月のポカポカ陽気の日、合否電報をそわそわしながら待っていました。昼食後「山田さん電報です！」と郵便屋さん。期待に胸を膨らませ、急いで封を開けました。

するとカタカナで

「ザンネン サクラチル」

無機質な字を見ながら「あ、そうなんだ・・・」

肩の力が抜け、縁側に坐り、遠くに見える段々畑の山をボーッと眺めていました。頭の中で1年生の頃からの記憶が蘇りました。勉強以外は思いっきり青春をした高校時代。本当に楽しかった。しかし後悔していました。

「なんでもっと勉強をしなかったんだろう。

A君の様にあの入学前の春休み、きちんとやっておけば・・・。」

あの日の情景は今でもはっきりと覚えています。死ぬまで忘れません。墓場まで持つて行くんでしょね。

これが私の、塾をやっている根本にあるものです。

私の失敗を、あの後悔を、塾生にはさせたくない。

だからこの春が大切なのです。頑張って良い結果を中間テストまで継続させる。そこまでいけば軌道に乗るでしょう。

春プロを頑張り、以降さらに継続して通塾する生徒には、中間テストまでの2カ月を授業料半額でサポートさせていただきます。

君が高校生活をスタートするのに、納得のいく位置を確保して下さい！

君にとってのポールポジションを絶対に取って下さい！

加納高校から北高にワンランク上げ合格を勝ち取った1年の宮田君、324点からの挑戦～入試453点の大逆転合格の加納高校の嶺川さんも春プロで頑張り、彼らにとってのポールポジションで高校生活をスタートさせました。今では校内50番以内をキープ、嶺川さんは前回のテストで29番を取りました。

少し先の話になりましたが、今は高校入試に向かって、100%で駆け抜

けて下さい！そして春プロでは笑顔で会いましょう！

学志舎 塾長 山田勝登